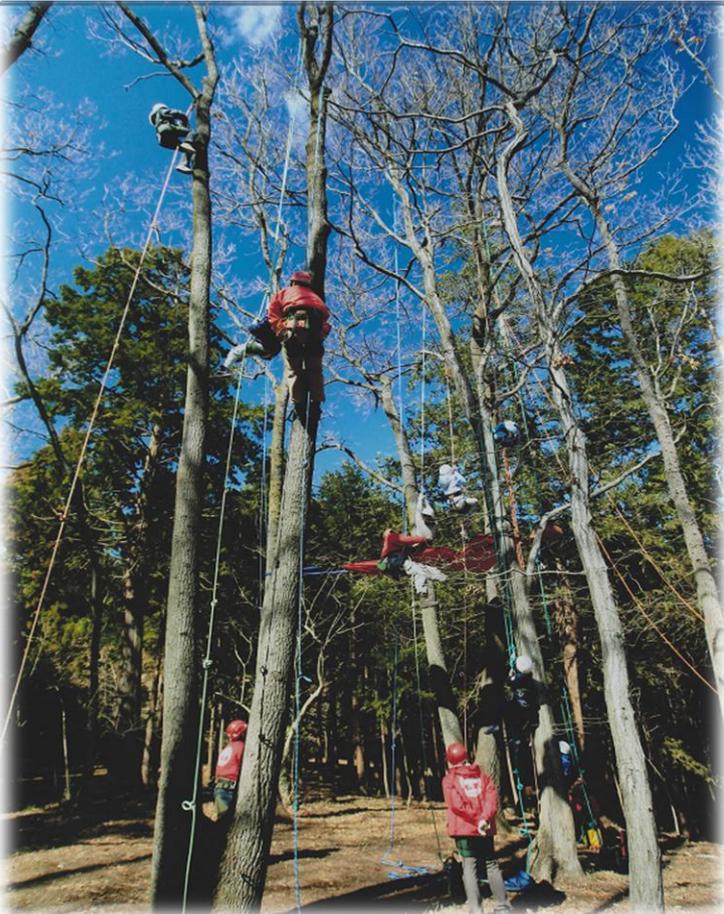


秦野市生物多様性地域連携保全活動計画



はじめに



秦野市は、北には神奈川の屋根と呼ばれる丹沢連峰が連なり、南には渋沢丘陵が東西に走る、神奈川県唯一の盆地です。秦野盆地では、丹沢山地や盆地に降った雨が地下水としてかん養され、盆地の南東方面の平沢・今泉地区では、豊富な湧き水となっており、「秦野盆地湧水群」として全国名水百選にも選ばれています。

また、かつて日本三大葉たばことして名を馳せた「秦野葉」の生産地として知られていました。当時は、葉たばこ栽培に欠かせない資源として、クヌギやコナラの落葉を苗床の肥料に、幹や枝は乾燥用の燃料、薪として活用することにより、管理の行き届いた里山の原風景を保ちながら、伝統的な農村文化として自然環境との調和を図ってきました。

このような里地里山の環境は、秦野市の生物多様性の原点であり、葉たばこ栽培で培った農村文化の象徴である管理の行き届いた里山と周辺農地の原風景を、市民やボランティアの熱意、力をお借りして再現することにより、秦野市が自然環境とのかかわりを通して抱える様々な課題に対応し、市民が主体となったまちづくりを推進してきました。

平成16年度には、環境省が選定した全国4地域のうちのひとつとして「里地里山保全再生モデル事業」を実施し、平成18年3月には「地域戦略」を策定しました。本計画では、その地域戦略をマスタープランとし、地域戦略策定後に生じてきた課題等を踏まえながら、秦野らしさを生かした具体的な活動計画として策定しました。

今後は、本計画に基づき、地域の多様な主体が参加、連携し、地域の特性に応じた活動を展開する中で、里地里山を積極的に取り入れた地域社会やライフスタイルが確立され、秦野の魅力として誇れるような活動を展開していきます。

最後になりましたが、本計画策定に当たり2カ年に渡り熱心に議論を重ねていただいた検討委員の皆様を始め、計画に対するご意見をお寄せいただいた市民の皆様に厚くお礼申し上げます。

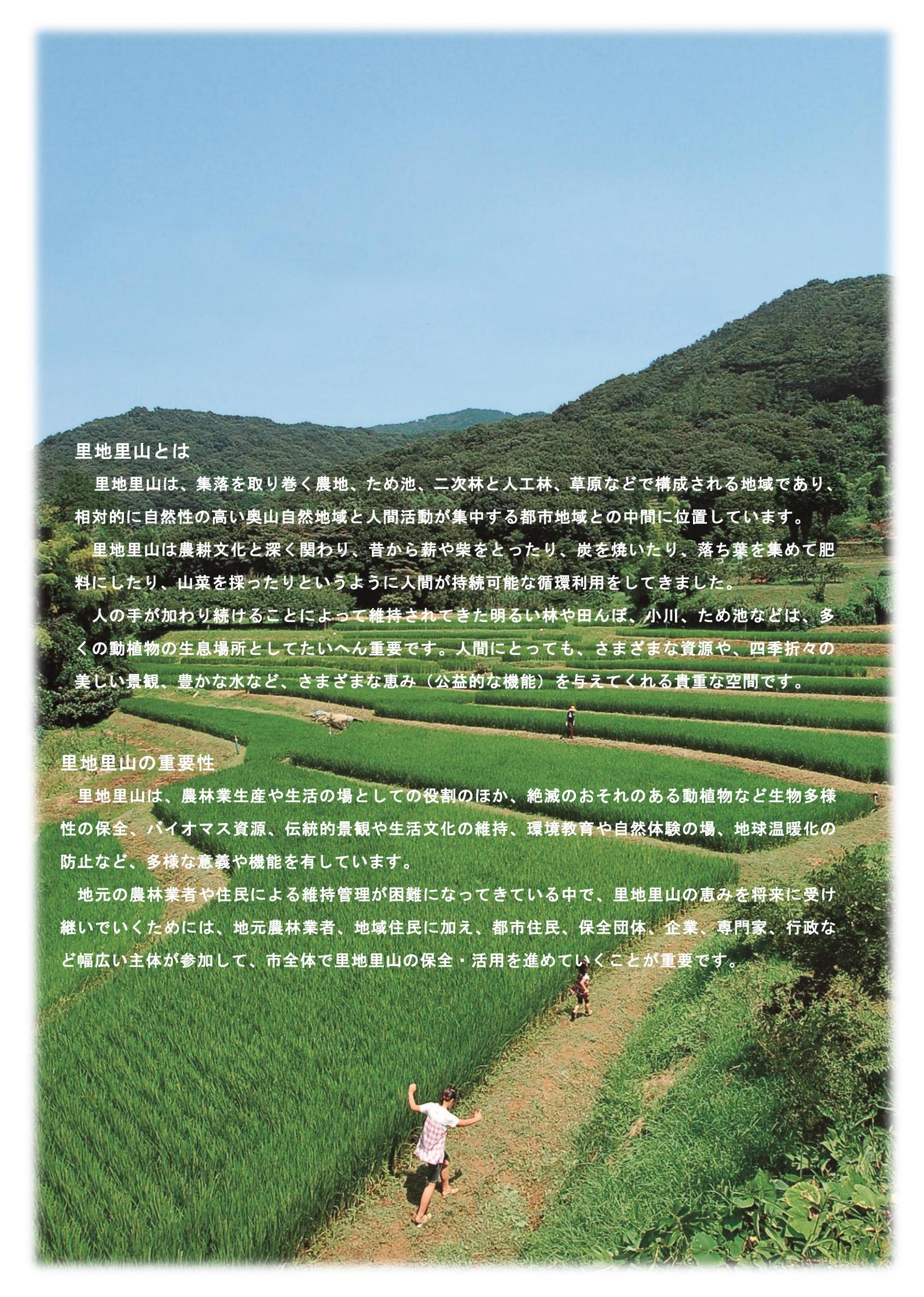
平成26年3月

秦野市長 古谷 義幸

目 次

第1章 保全活動計画の背景と地域特性	1
1 生物多様性を取り巻く世界、国内の社会動向	2
2 秦野市の現況	4
(1) 秦野の環境特性	4
(2) 自然環境	6
森林	6
農地	9
水（地下水）	11
生物	13
3 秦野市の関連計画	14
(1) 総合計画	14
(2) 環境基本計画	16
(3) 里地里山保全再生モデル事業（神奈川県秦野地域）地域戦略	17
第2章 保全活動計画について	21
1 基本的な考え方	22
2 計画の位置づけ	24
3 計画区域	25
4 活動目標	27
5 計画期間	28
6 国・県との連携	28
7 推進体制	29
第3章 活動内容について	31
1 市全体の活動	32
(1) 里地里山を使う	32
(2) 里地里山を誇る	35
(3) 里地里山で学び・楽しむ	36
(4) みんなで里地里山	37
2 地区ごとの活動	39

資料編	43
1 里地里山保全・再生活動に関する取組	44
(1) 地域戦略に基づく取組(全体図、地区別図)	44
(2) 今までの整備箇所(ふるさと里山、団体活動地)	47
2 自然環境調査の概要	48
3 秦野市生物多様性地域連携計画策定検討委員会委員名簿	71



里地里山とは

里地里山は、集落を取り巻く農地、ため池、二次林と人工林、草原などで構成される地域であり、相対的に自然性の高い奥山自然地域と人間活動が集中する都市地域との中間に位置しています。

里地里山は農耕文化と深く関わり、昔から薪や柴をとったり、炭を焼いたり、落ち葉を集めて肥料にしたり、山菜を採ったりというように人間が持続可能な循環利用をしてきました。

人の手が加わり続けることによって維持されてきた明るい林や田んぼ、小川、ため池などは、多くの動植物の生息場所としてたいへん重要です。人間にとっても、さまざまな資源や、四季折々の美しい景観、豊かな水など、さまざまな恵み（公益的な機能）を与えてくれる貴重な空間です。

里地里山の重要性

里地里山は、農林業生産や生活の場としての役割のほか、絶滅のおそれのある動植物など生物多様性の保全、バイオマス資源、伝統的景観や生活文化の維持、環境教育や自然体験の場、地球温暖化の防止など、多様な意義や機能を有しています。

地元の農林業者や住民による維持管理が困難になってきている中で、里地里山の恵みを将来に受け継いでいくためには、地元農林業者、地域住民に加え、都市住民、保全団体、企業、専門家、行政など幅広い主体が参加して、市全体で里地里山の保全・活用を進めていくことが重要です。